

# 2017年度 地域プロジェクト演習 公開発表会プログラム

2017年9月5日（火） 15:00～17:00  
COCキャンパス まちの講堂

- 1 開会にあたって デザイン研究科長 城間 祥之 教授
- 2 各グループの発表
- 3 閉会にあたって デザイン研究科長 城間 祥之 教授

司会：柿山浩一郎准教授

【発表：16分、質疑応答：8分、入換1分、計25分】

予定時刻	タイトル/発表概要		グループ構成員
15:05 }	【タイトル】	厚真町プロジェクト～越中型民家移築の活用提案～	亀梨 亜弥華 川島 健夫 町田 和樹 松下 奈生 廖 星星
	【発表概要】	厚真町と札幌市立大学は連携協定を結び、これまでに「厚真町プロジェクト」として、2012年から厚真町の調査と様々な提案を行ってきた。本年度は、2017年に町に寄付された幅田家住宅の実測調査を行い、活用の提案を行う。 厚真町には宿泊施設が少なく、観光客の宿泊場所は民宿などに限られている。旧幅田家住宅は、厚真町他の古民家に比べて規模が大きく、多くの人々を収容できることから、宿泊施設として活用していくことが望ましいと考えられる。また、ゲストハウスとして活用することで、厚真町を訪れた観光客に宿泊場所を提供するだけでなく、厚真町古民家の文化的な価値を伝える観光の拠点となることが考えられる。本プロジェクトでは、「古民家に住むという非日常の体験を提供する」というコンセプトを基に、旧幅田家住宅をゲストハウスとして活用し、地域の人々との交流が行われるだけでなく、実際に現地での生活も体験可能な宿泊施設を提案する。	
15:30 }	【タイトル】	札幌市の郊外住宅地における公共空間の計画・調査 -商店街と公園を事例として-	片桐 由貴 神守 優二 佐々木 賢吾朗 佐々木 優二
	【発表概要】	札幌市は郊外住宅地のまちづくりにおいて「良好な居住環境の維持・向上や持続的な地域コミュニティの形成」を目指している。本演習では商店街や公園といった地域住民が集う公共空間の計画・調査を通し、札幌市が目指す郊外住宅地のまちづくりの取り組みの手掛かりを提示することを目的として、以下の3つのプロジェクト課題に取り組んだ。発寒商店街と連携した「手造（てあ）る）通プロジェクト」では展覧会、ショールームの空間デザインを提案し、商店街における各スペースの空間活用の方法と可能性を示した。札幌市平岡公園プロジェクトでは湿地造成計画で2000年から約16年間のモニタリングを記録し調査した結果、初期に多量に導入した種が人工湿地の群落形成に大きく関わることが分かった。札幌芸術の森プロジェクトでは快適な屋外温熱環境とはどのような条件かを明らかにするため放射エクセルギーに着目して実測調査を行い、快適と考えられる屋外の場所の条件を示した。	
15:55 }	【タイトル】	病院レベルの感染症対策を提供する株式会社IMJの設立に向けた検討 ～「専門性(病院レベルの衛生管理)」「独自の衛生規格」「清掃のイメージ改革」 「速さ」「働き方改革」の検討～	巖 良謙 王 歆 宮尾 芙由子 安田 創
	【発表概要】	トイレの感染症対策を行う会社(IMJ)設立のための具体的な内容を検討した。IMJのコンセプトを「専門性」「独自の衛生規格」「清掃のイメージ改革」「速さ」「働き方改革」と定め、これらを確立するために次の4つの検討を行った。①専門性を確立するため、清掃事業で使用する薬剤の効果検証を飲食店のトイレで実施し、短時間で効果的な清掃が可能であるという知見を得た。②独自の衛生規格を確立する方法を検討し、「目で見て綺麗」「データで綺麗」の差をアンケートと汚れ検査で視覚的に提示することができる検査表を制作した。③清掃のイメージ改革のため、昨年度に制作されたロゴを再検討し、「ワンランク上の清掃」を表現する新たなロゴマークを検討し制作した。④速さ・働き方を改革する方法を検討し、清掃員の位置の把握、清掃員同士のコミュニケーション・サポート要請、感染リスクの把握と通知ができるサポートシステムを考案した。	
16:20 }	【タイトル】	身近な科学とアートに関する興味を引き出すことを目的にした小中学生向けワークショップ 「マーブリングアーティストになろう！」の開催	内山 まりい 許 栄蓉 前川 莉菜 李 爽 李 天遠
	【発表概要】	札幌市青少年科学館を会場とする小中学生向けワークショップを開催した。札幌市青少年科学館からの要望は「科学への興味の向上を目指したもの」「デザイン・芸術に関連のあるもの」いうものであった。これを踏まえて以下の視点で内容を検討した。適切な難易度、身近な物での科学体験可能性、芸術性の有無、学際性、運営の実現性、持ち帰り可能な制作物、親子参加への考慮。検討の結果、マーブリング制作を取り上げることとした。これは、表面張力という物理現象への理解とアートに関する興味を引き出すことを目的としている。ワークショップには12名の参加者があった。参加者アンケートから、科学とアートに対する興味が向上したことが確認できた。	
16:45 }	【発表概要】	（このセッションは発表概要のみが記載されている）	指導教員 石井雅博 教授 松永康佑 講師